

平成 19 年 7 月 10 日

北関東フォーラム

於：シムックス

中齋塾 北関東フォーラム 第 4 回講話

今日は違った質問を致します。

今までの自分の人生を振り返って、「何と私は良い人間だろう」と思える方は手を挙げて下さい。

・・・(少ないですね)

「何と私は人に迷惑をかけ散らしている人間だろう」と思う方は手を挙げて下さい。

・・・(多いですね)

自分の良い所を 50 でも 100 でも書き出してみる。

そして自分の悪い部分も書き出してみる。

両方を天秤にかけて、美点の方が多ければ文句なし。

これは基本哲学である「知足」に直結しています。

続けてお聞きします。

ここ 1 ヶ月間、良い事の連続だったという方はどれくらいおられますか？

この 1 ヶ月は悪戦苦闘、悪い事が多かったという方はどれくらいおられますか？

では、1 ヶ月間可もなく不可もなく、まあまあだと思える方はどれくらいおられますか？

これは意識付けの問題です。

出来れば「良い 1 ヶ月だったな・・・」と置いていけば、良い事が繰り返されていって、良い循環になります。

この意識がずっと続くと、阿頼耶識の中に考え方が沁み込んで来ます。

「良い一日だった」と思うと、大した事がないようなものでも、良い種として定着し芽を吹いて来ます。

夜眠る時に、「今日は良かったな・・・」と置いて眠れると、悪かった事も全部消える。

したがって寝る時に「今日は良い一日だった」と満足して眠れたかどうかは鍵になります。

良いと思うか思わないかは心の問題、自分が意識するかしないかの問題です。

自分が意識すれば、他人が見ればどうしようもないと思う事でも、素晴らしい事が随分あります。

その素晴らしい事を繰り返せば良いわけです。

基本哲学の「知足」と私の好きな言葉「うそをつかない」についてお話ししました。

繰り返しますが、夜寝る時に「知足の一日だった・・・」と思って眠れるかどうかポイントです。

それには、一日嘘をつかないようにする事です。

「利によりて行なえば、怨み多し」については、先ほど福田代表幹事にして戴いた論語の素読にもありましたが、洪澤栄一さんが一生涯守り貫いた言葉だと受け止めて下さい。

では、**心に残る言葉**を申し上げます。

今回は、思考の三原則です。

本日のテーマ、判断の三原則は、安岡先生の思考三原則と木内先生の考え方をベースとして考えたもので、中身は同じです。

お配りした参考資料をご覧ください。

思考の三原則①

第一は、目先に捉われなくて、出来るだけ長い目で見ること、

第二は物事の一面に捉われなくて、出来るだけ多面的に、出来得れば全面的に見ること、

第三に何事によらず枝葉末節に捉われず、根本的に考える

『安岡正篤 一日一言』安岡正篤著 致知出版社 P. 111 より

安岡正篤先生は「ものを考える時に三つの原則がある」と、色々な所で言っておられます。

参考資料に書きました『人物を修める』、『先哲講座』という本にも、表現は若干違いますが、同じ内容のものが書いてあります。

木内信胤先生も、同じような事を違う言葉で表現されています。

私はこれを基にして、判断の三原則<本質・大局・歴史>を考えました。

中身は同じです。

小さな事でもこの三つの原則で考えると、そう間違いはないと存じます。

具体的な事で申します。

<或る方が商売を一所懸命やるけれども、なかなか思うような利益が生まれない・・・>

この問題について、判断の三原則で考えてみましょう。

まず本質を考えます。

本質は、＜その仕事が社会の役に立っているかいないか＞を、とことん突き詰める事だと思えます。

社会の役に立っている内容を考えます。

どれくらいの人に対して役に立っているのか、表面的なものだけ役に立っているのか、心の底から感謝の念の持たれるのか、本質を考えます。

長く存続しているという事であれば、世の中の役に立っている事は間違いありません。

そうになると次は、世の中の役に立つ濃淡の問題だと思えます。

深いか浅いか、心に感動をもたらすかそうでないか、有難い・素晴らしいと思うようなものを社会に提供しているか否か、感激を与えるか否か・・・といった所が、その仕事の本質論になります。

結果として、＜社会が、それがなければ成り立たない＞という所まで詰めて考えるべきだと思えます。

大局は、色々な方の立場でものを見るという事です。

その会社の社長の立場、社員の立場、お客様の立場、地域の方々の考え方、マスコミの考え方、ひいては世論・・・日本国内のそれぞれの立場で考える必要がある。

又、同業で他の国々の方々はどのような考え方でその業を営んでいるか、他の国々の方たちとの比較をし、じっくり話し合ってみる事も必要です。

他の方は、どのようにして利益を上げているのか。

利益という点で考えた時に、立場や環境によって考える利益は違います。

例えば、安くて良いものを提供するが良いのか。

高くて良いものを提供するが良いのか。

結果として、高くて悪いものを提供しているのか。

安くて悪いものを提供しているのか。

・・・この辺りは、本質に直結します。

自分が提供している品物やサービスが、どういうものなのか。

その判断基準は、業界の中での判断、国民性の中での判断、他の国々の中での判断、それぞれ大局面で見ると、判断の基準は非常に変わってきます。

それを一つ一つ突き詰めていくべきだと思えます。

歴史的に考えます。

同業の方々がどういう歴史を持っているか。

日本の国の歴史の中で、その事業がどのように成立し、どのように現在に至っているか。

他の国々では、どのような流れで現在に来ているのか。

どのような経緯で、どのような重さをもって現在に伝わっているのか、歴史的に考えてみる必要があると思います。

もう少し具体的に、例えば宝石業界を例に考えましょう。

古代文明の遺跡からも多くの宝石が発見されていますから、歴史的に考えて、＜人類にとって必要な装飾品だった＞という裏付けが出来ます。

大局的にみると、発展をした会社もあるし、すぐに消えていく会社もある。

それは何故か・・・詰めて考えると、本質論に立ち返ります。

本質論に立ち返って、狙いも考え方も良いとしたら、何が悪いのか？

その国の制度の中で、制度と自分の考えがどの程度一致しているかどうかを考えてみる必要があるでしょう。

かなり齟齬をきたしていれば問題です。

自分で良いと思ってやっても、その国の税法と合わないとか、その国の仕事の進め方と合わないかもしれません。

今の日本はどうしても拝金主義に染まっています。

安かろう悪かろうがはびこっています。

＜良いものを高く＞という考え方も悪くはないと思いますが、それだけを追及しては、多分今の仕組みの中で自縄自縛に陥ってしまうのではないかと思います。

違う角度から違う視点で手を打つと、がらっと変わった世界が開けると思います。

木内信胤先生は「ある事を考えると、それはミクロでは悪い事だが、マクロで見ると非常に良い事だ」と言われています。

ミクロで見ると良い事ばかりやっても、マクロで会社全体の経営という点で見た場合に悪いことをしているのでは、利益につながりません。

今度は「知足」を判断の三原則で考えましょう。

本質は人です。

人が生きていく上で、何が一番肝心なものかを考えます。

人間が生きていく上で一番肝心なものは、考え方です。

世界各国の中で、どういう考え方が一番自分の波長に合うかを考えていく。

我々は日本人ですから、「おかげさまで」「もったいない」「ありがとう」といった言葉があります。

これらは本気で詰めていくと大変な言葉です。

例えば「有難い」とは、有る事が難い。

この世に存在すること自体が、あり得ないくらい困難な現象であるという意味ですから、そういう事に出会えた事を心から感謝するという言葉が「有難い」なのです。

同様に「挨拶」という言葉も、お互いに真剣勝負で切り結んでいることです。

相手の心の中に、びしっと一本決まるような状況が「挨拶」ですから、中味が分かってくると軽々しく「おはようございます」とか「さようなら」とは言えなくなります。

それらをずっと網羅していくと、一日が終わって「今日は良かったな」と思った時に「知足」という言葉が自然と浮かんで来ます。

「知足」（足るを知る）は、日常の生活の中で、或いは事業を進める上で、肝心要の根本的な言葉になります。

「知足」の本質を考えた時に、何故この言葉が生まれたのだろう、どうしてこの言葉が世の中に存在するのだろう・・・それをそのまま自分自身は何故この世に誕生し、現在生きているのだろう・・・と同次元で考えて突き進めていくと、一致して来ます。

一致しないような考え方では、＜足るを知る＞とはなりません。

大局の視点で「知足」を見ましょう。

大局とは色々な人の立場から考える事です。

自分の立場・家族の立場・会社組織の中の人々の考え方・地域の方々の考え方・行政の考え方・マスコミの立場・・・考えられるありとあらゆる人々の立場で「知足」を考える。

そうすると、まるっきり違う事が浮かび上がって来ます。

これは時間をかけて、じっくりご自分で考えて下さい。

例えば、会社の立場で、＜足るを知る＞経営とは何かを考える。

そうすると、不埒な経営者は、利益優先でどんどん儲けが出なければいけない。

＜足るを知る＞経営は、最大限の利益をもたらす経営だ、という方もいるでしょう。

しかし、＜足るを知る＞経営とは、自分がこれで良いと思ったところで利益を止めておき、10年先20年先の手当ては若干したとしても貪る所まではいかない。

＜足るを知る＞経営とは、貪らない経営だという方もいるでしょう。

大局で「知足」を考えると、その立場によってまるっきり違います。
ただ皆さん自分の立場しか見ないのです。
是非、立場を変えて考える訓練をされると良いと思います。

次に歴史です。

これは歴史に関する書を読むしかありません。
学んで過去の出来事を知るしかありません。
人物評価等であれば、中国の歴史が良いでしょう。
日本の歴史も非常に深いものがあります。
これは学ばないと分かりません。
ですから歴史の視点は、学ぶ事に尽きます。

まとめを申します。

本日のテーマ「判断の三原則」は、どうぞご自分に切実な問題があったら考えてみて下さい。

安岡先生の場合は「思考の三原則」ですが、何度も読み直しをして戴いて、それに照らし合わせて考えると、意外とすっきりしてきます。

私は<本質・大局・歴史>という言葉でまとめました。

この言葉をまとめるのに、色々な角度で考えましたので十数年かかりました。

私は大きな問題も小さな問題も、この<本質・大局・歴史>で考えて、パズルが解けるような思いをしたことが何度もあります。

ですからこれはお勧めです。

次回は総合的直観力、木内信胤先生のお話を致します。

総合的直観力は、一言で申しますと「悟り」です。

悟りの前は、ひらめきです。

では、ひらめきは何故生まれるか・・・という事をお話し致します。

以上で本日の北関東フォーラムは終了と致します。

有難うございました。